

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakū

38



★キンダーキッズ作品コンクール

★バリ島グリーンスクール視察

★神戸シーサイド校、アドベンチャースクールにリニューアル

★インフィニティ長野旅行





KINDER KIDS 作品コンクール2024



絵日記の部 最優秀賞



S.K.ちゃん
(品川校・K2)



わたしはボートになりました。えほんのいっしんぼうしでみた、おわんのようなボートでした。おどとをみたらきもちがわるそうでした。おかあさんが、「ふなよいだよ」とおしゃってくれました。ふねでもよっぱらうんだとおもいました。

絵日記の部 優秀賞

K.T.くん (大阪本校・K2)



ぼくはきやんぶではなびをしました。はなびはひをつけると、ぱちぱちおとがして、きんいろのおはながさいているみたいでした。まるやさんかくのかたちもありました。ほんとうのおはなだつたらさわってみたいなどおもいました。

2024年度のキンダー作品コンクールへのご応募、誠にありがとうございました。

本年も全スクールから多彩な子どもらしい素敵な作品が集まりました。作品の中には、日常の小さな出来事から大きな発見まで、子どもたちの豊かな感性と創造力が表現されており、見る者の心に響く内容となっています。今年は特に入賞作品の質と量が増え、選考にあたっては一層の熱意が感じられました。

はじめてプールでにらめっこ

わたしはずっと、みずのなかにかおをつけるのがこわくてできませんでした。プールにいつでも、ずっとあさいところにいました。でもこのなつやすみにパパが「てをにぎってみてだいじょうぶだよ。」といって、ひろいプールのはしからはしまでずっとおよがせてくれました。ずっとおよぐことができて、まるでさかなになつたきぶんでした。なんかいもいつたりきたりしたあと、はしつこで「みずのなかでにらめっこしよう。」つていわれました。なんだかきゅうにできるきがして、「せーの！」でもぐりました。はじめてみずのかにはいることができてめちゃめちゃうれしかったです。

作文の部 最優秀賞



L.K.ちゃん
(京都校・K3)

ぱんづくり

K.M.ちゃん (奈良登美ヶ丘校・K2)

あしたぱんをつくろうねとやくそくしたので、はやおきました。あさごはんのまえにこなをはかりました。すぱーんですこしずつ、ていねいにしました。みずもしおもいれました。ぱんのたねをいれてぼたんをおしたら、せんぱうきみみたいにぐるぐるまわつてぱちぱちおとがなりました。

おひるにぱんのかたちをつくりました。すらいむみたいにぱにぱになので、やさしくさわりました。なかにあめをいれました。

おーぶんでやくと、まんまるのぱんができました。あめはとけてしまつたけれど、とてもおいしかったので、おばあちゃんにもあげました。またつくりたいな。

Tweet賞

A.N.ちゃんのお母様
(大阪ベイ・K2)

娘と父

4歳になる娘は、お口も達者になつてきました。



娘「ヒーハー取つて！」
母「ヒーハー？」(マーさんの)
イーヨーのぬいぐるみね、
何で間違い…。」
娘「私にとつては、ヒーハー
なの!!」
笑つてしましました。
:後日。

父「最近流行りで透けてる
ファッショント何で言うん
やつけ、スー…とか。」
母「シアーでしょ」
父「スーでもシアーでも
霧雨気一緒にやん。」
娘と同じく口達者な父に苦笑
いし、親子だなと思いました。

《かがやき賞》

【絵日記】 H.T.ちゃん (大阪本校 K3)
S.K.ちゃん (横浜校 K3)
K.N.くん (堺校 K3)
D.T.くん (横浜校 K3)
I.M.ちゃん (天王寺夕陽丘校 K3)
R.T.ちゃん (堂島校 K3)
【作文】 S.S.くん (福岡校 K3)
S.F.くん (神戸シーサイド校 K3)

《はばたき賞》

【絵日記】 K.I.くん (福岡校 K1)
K.O.くん (天王寺夕陽丘校 K1)
I.S.ちゃん (芦屋校 K2)
M.M.ちゃん (横浜校 K2)
Y.Y.ちゃん (阿波座校 K1)
S.T.ちゃん (品川校 K2)
I.T.くん (名古屋校 K2)
S.K.くん (八尾校 K2)
【作文】 H.T.ちゃん (品川校 K1)

Tweet賞

H.F.ちゃんのお母様
(天王寺夕陽丘校・K1)

とある夏の日

晩ご飯前に娘が何か余計なことをして怒つてしましました。娘と二人静まり返った食卓。下の赤ちゃんだけがわあわあしゃべっています。

すると突然

「閑さや岩にしみ入る蝉の声」と娘が一読！なんでも知っているの!? という驚きで一気に楽しい食卓に変わりました。

いつも笑顔をくれてありがとう。



受験・学習課 課長代理
篠田 久美子

保護者の皆様からは「今年も作品コンクールが開催されますか?」という問い合わせが増えてきました。作品コンクールが創作活動の一環として定着している証であり、大変嬉しく思っています。学習クラスで習った文字を用いて、心に残ったことを文字に残しておく活動は、言語能力だけでなく、表現力の基礎も築きます。自らの思いを文字にして家族やお友達に伝える経験は、子どもたちにとって貴重な学びの機会となります。作品を通じて、家族の絆を深める一場面として、また成長の記録として残しておくことをお勧めします。今回の入賞作品をご家庭で読んでいただくことで、子どもたちだけでなく、保護者の皆様にも同じ年頃のお友達の感性を味わっていただきたいと思います。来年も更に多くのご参加をお待ちしております!

グリーンスクール 視察レポート

2025/1/9-12  Bali, Indonesia

インドネシア・バリ島のグリーンスクールを視察

2025年1月、キンダーキッズのスタッフがインドネシア・バリ島にあるグリーンスクールを視察しました。このインターナショナルスクールは、「持続可能な生き方」をテーマに、地球に優しい未来を創るリーダーの育成を目指し、自然と共生する環境の中で学びを提供しています。今回の視察にはアドベンチャースクールやインフィニティのメンバーも加わり、それぞれのスクールで活かせる学びを探ることが目的でした。

グリーンスクールは、竹を活用したオープンエアの校舎や、広大な自然環境の中での学びが特徴です。生徒主体のプロジェクト型学習（PBL）を重視し、持続可能性をテーマにした統合的なカリキュラムが組まれています。視察を通じて、プロジェクト型学習の実践、自然を活用した教育、地域社会との連携など、多くの示唆を得ることができました。

グリーンスクールの特徴と学び

グリーンスクールの教育は、以下の点でユニークでした。

1. 実践型学習（PBL）

各学年が畑を持ち、作物の育成を通じて持続可能な農業を学んでいます。また、校内では再生可能エネルギーを活用し、エコシステムの一環として学びが展開されています。

2. 統合型カリキュラム

科学、数学、アート、テクノロジーを横断的に学び、環境問題に対する解決策を探求します。校内のソーラーパネルや雨水の再利用システムも、学びの一環として活用されています。

3. 自然との触れ合い

授業の多くは屋外で行われ、川での活動や裸足での学習が奨励されています。五感をフルに活かしながら学ぶ環境が整っています。

4. 動物との関わり

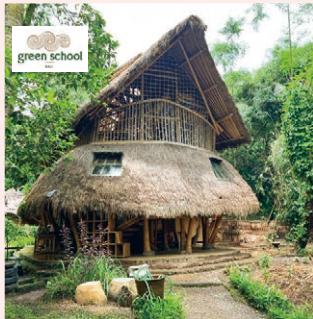
生徒たちは牛・豚・うさぎなどの世話を通じて、生命の大切さや責任感を学んでいます。

5. コミュニティとの連携

地域の農業支援や環境教育プログラムを実施し、保護者の関与を積極的に取り入れています。



グリーンスクールに隣接する、グリーンビレッジ周辺に広がる熱帯雨林。グリーンスクールの周辺には多様な植物が生い茂り、鳥や昆虫などの生態系が共存する自然環境が広がっている。



グリーンスクール [Green School, Bali]

2008年にインドネシア・バリ島の田園地帯、アバン地区で設立された国際学校。最大の特徴は“持続可能な学校”として木材だけできた校舎、電気を使わない照明環境、節水に配慮したトイレなど、徹底的に環境のことを考えていること。周辺には、サステナブルな建築技術を取り入れた「グリーンビレッジ」が広がり、住居やワークスペース、教育施設が共存するコミュニティが形成されている。地域全体で持続可能な暮らしを実践している点も特徴的である。タイム誌やフォーブス誌などで環境教育の先駆的モデルとして「最も革新的な学校」として取り上げられたこともあり、現在は南アフリカやニュージーランドにも姉妹校を展開し、国際的な広がりを見せている。



グリーンスクールの敷地内を流れるアウン川。生徒たちは自然の中で水遊びや水泳を楽しめ、泥プールでの泥んこレスリングなどを通じて五感を使った学びを深めている。

グリーンスクールでは、牛や豚、うさぎなどの動物が飼育されており、日々の世話を通じて、生徒たちは生き物と共に暮らす経験を積んでいる。



視察を通じて得た示唆と応用

今回の視察を通じて、アドベンチャースクールやインフィニティでも実践可能な学びのヒントを得ました。



《アドベンチャースクールへの応用》

自然を活かした探究型学習の強化

水辺でのリスクマネジメントや
農作物の育成を通じ、
子どもたちの探究心を育む

動物とのふれあい教育

身近な小さな生き物の飼育を試み、
命を育てる経験を提供

環境意識を高める実践活動

コンポスト作りや
再生可能エネルギーを活用した
ワークショップを実施

保護者とともに広げる学び

家庭と学校が連携し、
探究型学習や環境教育の
機会を広げる

《インフィニティへの応用》

プロジェクト・ベースド・ラーニング (PBL) の推進

環境問題や地域課題をテーマに、生徒主体の探究活動を強化

学習環境の進化

屋内外を自由に行き来できる学習環境を整え、探究型学習を促進

五感を活かした学びの導入

裸足での活動や自然と直接触れ合う機会を増やし、体験的な学習を充実させる



竹を活用した独創的な校舎と壁のない開放的な学習空間。自然と調和した環境の中で、自由な発想を育む教育が実践されている。

敷地内に広がる緑豊かな環境。広大な自然の中で、子どもたちは五感を使って学びを深める。



学校内に設置されたリサイクルステーション。紙、プラスチックボトル、缶、テトラパックなど、細かく分別することで廃棄物の削減と再利用を促進している。



「I see …」「I wonder …」と題された探究学習のボード。生徒たちは日々の学びの中で気づいたことや疑問を自由に書き出し、好奇心を深めながら学びを発展させていく。



アドベンチャースクール
東京本校
守口 綾

グリーンスクール視察を振り返って

今回の視察を通じて、「自然と学びが一体となる環境が、子どもたちの主体性や探究心を育む」ことを改めて実感しました。

例えば、東京本校では緑が広がり、多くの昆虫が生息しています。この環境を単なる遊び場としてではなく、グリーンスクールのように学びの場として活用できる可能性を感じました。園庭の清掃や園芸活動を子どもたちの役割として位置づけ、主体的に関わる機会を増やしたいと考えています。

また、グリーンスクールの生徒たちが挑戦を通じて学びを深めているように、子どもたちには「好きなことや興味のあることを探究する経験」を大切にしてほしいと思

います。そのためには、安心して挑戦できる環境が必要です。たとえ失敗しても、その気持ちを受け止め、寄り添ってくれる存在がいれば、前向きな気持ちを持ち続けることができます。私たち保育士は、子どもたちが安心して学びに向き合えるよう、一人ひとりの思いやペースを尊重しながらサポートしていきます。今回の視察で得た学びを活かし、キンダーキッズならではの「自然学習×英語」の教育をより充実させていきます。



アドベンチャースクールへの移行で広がる学び

神戸シーサイド校では、子どもたちが1日の大半を過ごす園生活の中で、自然と触れ合う時間を増やすことで心身をリフレッシュし、より健やかな成長を促します。また、屋外活動の中でお友だちと協力し合い、チームワークや創造力を育む場面が増えます。さらに、五感を使った体験を通じて、これまでインプットしてきた英語を自然にアウトプットする機会が広がることも期待されています。



神戸シーサイド アドベンチャースクール リニュー



施設と立地を活かした特色あるプログラム

園内にはサークルタイムデッキ、どろんこ池、菜園、焚き火エリアなどを整備し、子どもたちが五感を使って学び、自然の中で自由な発想で遊べる環境を整えています。どろんこ池では、感触遊びを通じて身体を大きく使いながら自由に表現する楽しさを体験し、菜園ではサツマイモやスイカを育て、収穫の喜びを味わいながら、食に対する興味や感謝の気持ちを育んでいます。また、園庭での焚き火を使った調理では、焼き芋大会や味噌作りを実施。自分たちで作った味噌を使い、みんなでお味噌汁を作る体験も取り入れました。さらに、環境学習の一環で砂浜での清掃活動や自然観察を通じて環境を守る意識や自然との関わりを学ぶ機会を提供しています。

自然の中で育む探究心と英語力

今後は、おもちゃや遊具に頼らず、自然の中で自由に発想できる時間を増やし、子ども主体の探究学習を充実させていきます。その一環として、廃材や絵の具を使っての野外フリーアートを導入し、子どもたちが思いきり創造力を発揮できる場を提供します。また、給食の生ごみや落ち葉から肥料を作り、野菜や果物を育てるなど、自然の環境を学ぶ機会を増やしています。



アドベンチャースクール
神戸シーサイド校 施設長
加門 直子

自然の中で学び、挑戦し、成長する環境へ

子どもたちは、自然の中で思いきり遊び、学ぶことが大好きです。アドベンチャースクールへの移行により、これまで以上に屋外活動を重視した環境を整え、子どもたちが主体的に考え、創造し、探求できる場を提供していきます。また、須磨海岸の立地を活かしたビーチ散策や海の学び、菜園活動やアウトドア調理イベント、他にも地域と連携したプログラムも充実させていきます。

先生たちからも素敵なアイディアがどんどん生まれていて、可能性は無限大です。今後も、子どもたちが探究心を持ち、のびのびと学べる環境を広げていきます。関西第1号となるアドベンチャースクール、神戸シーサイド校の挑戦にご期待ください!



サイド校が アーチャースクールに 参入!!

海と自然を活かした、神戸シーサイド校 ならではの学び

神戸シーサイド校のアーチャースクール化は、広い園庭と、東京本校とは異なる沿岸環境を最大限に活かし、子どもたちの探究心を育むことを目的としています。海岸探検を通じた学びでは、貝殻や石を集めながら、海洋生物の観察や環境保護についての理解を深める体験ができます。また、園内菜園や屋外調理施設を活用した「食育」プログラムを通じて、持続可能な

生活について考える機会を提供。子どもたちは、自然環境の中で自由度の高い遊びを通じて、チームワークや問題解決力を育んでいます。

新たな挑戦とプログラム開発

神戸シーサイド校では、サステナビリティ（持続可能性）への取り組みを軸に、新たなプログラムを開発しています。教員は須磨海岸の認定ライフガードによるトレーニングも受講し、安全意識を高めて子どもたちが安心して活動できる環境を整え、協力し合う力を育むサポートをしています。

また、「Nature-Based Journals」では、子どもたちが観察を記録し、論理的思考力やコミュニケーション能力を育む機会を提供します。さらに、「フリーアート」や「Exploration」を通じて、自分の意見を伝え合いながら意思決定をする力を伸ばす環境を整えています。

未来を切り拓く力を育む

アーチャースクールの目指す教育は、レジリエンス（困難を乗り越える力）、問題解決能力、創造力を育てるにあります。神戸シーサイド校は、日本のモデルアーチャースクールとして環境意識を高める取り組みを推進し、自然を活かした学びを深め、子どもたちの未来につながる力を育みます。



探究心を育み、学びを深めるアーチャースクール



アーチャースクール
カリキュラム責任者
ライアン・ロペス

神戸シーサイド校では、海辺の自然環境を活かし、子どもたちが自ら考え、行動し、学ぶ力を育むとともに、体験を通じた深い学びを提供いたします。また、自由な発想を促す探究型プログラムを取り入れ、子どもたちが論理的思考力や意思決定力を磨く場を広げます。さらに、自然の中での挑戦を通じて、困難を乗り越える力や創造性を伸ばし、英語を実践的に使う環境を整えています。アーチャースクールの理念をさらに発展させ、子どもたちが自然の中で多様な学びを体験できる、よりダイナミックなスクールを目指してまいります。



旅しながら学ぶ
歴史・地理・社会

長野探求修学旅行



10/31～11/2
長野

今回の旅の舞台は長野県でしたが、事前学習では中部地方9県についても学びました。大阪府に住む子どもたちにとって、中部地方の位置や特徴がすぐには思い浮かばず、まずは都道府県と七地方区分の理解から始めることになりました。

探求の第一歩として、まずは都道府県かるたを使い、日本各地の多様な地域について学びました。地方ごとや特産品の共通点で分類してみると、「都道府県って面白い！」と子どもたちの興味が引き出されました。

次に、自分たちでインターネットを使い、より深く調べる活動に挑戦。大人なら「長野県 特産品」とキーワードを入力すれば簡単に検索できますが、子どもたちにとっては「知りたいことを適切な言葉にする」こと自体が探求の一部でした。「長野県の食べ物を教えてください」と文章で入力する姿も多く見られ、試行錯誤しながら情報を探る経験を積んでいきました。

そこで、「どこについて知りたいのか」「何について知りたいのか」「いつの情報が必要なのか」といった視点で話し合いを重ねて、少しずつキーワードだけで検索できるようになり、最終的には英語と日本語の両方で情報を調べる力も身につけていきました。こうした探求を通じて、子どもたちは中部地方への理解を深めていきました。そして迎えた現地での学び。子どもたちの口から最も多く聞かれた言葉は、「空気が美味しい！」でした。この一言に、教室では得られない体験の価値が詰まっています。実際に訪れることでこそ、旅ならではの発見や感動が生まれるのだと実感しました。

今回の旅では、「野菜収穫や酪農、農園での体験を通して、中部地方の第一次産業について学ぶ」をテーマに、味噌作り、りんごの収穫、牛のお世話などを体験しました。



りんご農園で収穫体験!
収穫したりんごを使ってアップルパイ作りにも挑戦



大きなピーマンを収穫!
自然の恵みに笑顔いっぱい

子どもたちが特に生き生きとしていたのは、野菜の収穫体験でした。初めて触る大きなはさみを器用に使い、ピーマンとナスを収穫しました。「美味しいそうなものをお父さんとお母さんに持て帰りたい!」という思いが子どもたちの意欲を高めたようで、農家の方に積極的に質問する姿がとても印象的でした。収穫のコツや野菜の育ち方について尋ねるうちに、農家の方との交流も生まれ、学びがより深まっていきました。

今回の旅で感じた子どもたちの成長は、「友達に『手伝って』と言えるようになったこと」です。本校では日頃から「Collaborator(協力し合える人)」を大切にしています。そのため、子どもたちは頼られることが大好きで、困っている友達を積極的に助ける一方で、自分が困ったときには

負けたくない気持ちもあり、「手伝って」となかなか言えませんでした。

しかし、農業や酪農などの体験では、一人ではできない作業が多く、自然と「ちょっと手伝って!」「ここ持っててくれない?」という声が飛び交うようになりました。私たち教員はできるだけ手を貸さずに見守っていましたが、子どもたちは互いに助け合いながら作業を進め、協力することの大切さを実感していました。夜には、布団の準備やパッキングでも「だれか手伝ってくれない?」「いいよ!」と声を掛け合う場面が多く見られ、昼間の体験が日常の行動にもつながっていることを感じました。旅を通じて築いた助け合いの姿勢は、今後の学校生活やさらなる学びの場でも生かされていくことでしょう。



味噌の生産量全国一位を誇る長野県で、
味噌作りについて学び、仕込みを体験



インフィニティ国際学院
G2:1チューター/G2国語担当
鈴木 萌々花

広がる学びの輪 – 家庭での体験共有と次の旅への期待

今回の旅では、子どもたちが自分で収穫した野菜や果物を家庭に持ち帰り、「おうちの人が料理に使ってくれた」と嬉しそうに話してくれました。中には、もともとピーマンが苦手だった子どもが、自分で収穫して持ち帰ったピーマンは「食べてみたい!」と喜んで口にしたというエピソードもありました。自分で収穫したものだからこそ、より特別に感じ、大切に味わおうとする姿が印象的でした。こうして旅の経験が家庭での食卓につながり、子どもたちにとって貴重な体験になったことを実感しました。今年は、長野県と小豆島を旅ましたが、来年には「北海道」への3泊4日の旅が控えています。初めての旅行前には「家族と離れたくないから行きたくない」と不安を抱えていた子どもたちも、「次はいつ行けるの?」と旅を楽しみにするようになりました。旅を通じて成長する子どもたちの姿を、これからも見守っていきたいと思います。

インフィニティ
初等部HP



大阪市天王寺区
烏ヶ辻1丁目 2-22

表紙：クラフト“春風に舞う蝶々と旅立ちの日”

満開の桜の木のそばで、たくさんの蝶々が春風に乗ってひらひらと舞っています。

桜の下には卒園を迎えた子どもたちの姿があり、笑顔とともに新たな一步を踏み出しています。

蝶々と桜の花びらが、希望に満ちた未来への歩みをそっと見守っているかのようです。

春の穏やかな空の下、子どもたちが自然に包まれながら旅立つ光景は、心が温まりますね。

アイデアを お待ちしています!

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしています!

「Hiraku」編集部
TEL : 06-6135-0150
Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hiraku

2025年3月発行 Vol.38

次回 5月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com